序　章　検疫所、似島（にのしま）を訪ねて……9
第一章　国際舞台を意識して――捕虜対策……15
「恐怖」と外国人接触の未体験列島　求められた捕虜対策　捕虜の受け入れ
急増する捕虜　戦争終結と捕虜送還　捕虜収容所の開設地ついて
第二章　捕虜がやってきた――最初の収容所・松山……33
初めてのロシア兵捕虜を迎えた松山　捕虜の取り扱い方
日本人の見た捕虜とロシア人の見た日本人　捕虜たちの生活
捕虜たちの日々　〝ショーウインドウ〟としての松山
第三章　なだれ込む捕虜――軋轢と〝交流〟と……49
のどかな収容所からの脱走事件　旅順陥落による捕虜たちの到着　異色の捕虜たちと訪問者

第四章　開戦当初から決まっていた丸亀・善通寺……57
受け入れ準備と多数の訪問者　誘致運動もあった収容所設置
水不足の収容所　終戦後の〝思わぬ出来事〟
第五章　汽車輸送の始まり――姫路・福知山……67
四国から本州への第一歩　収容所増設要請　続出するトラブル
住民七人のうち一人が捕虜という福知山だが……　残留捕虜四〇三名、二つのエピソード
第六章　〝将軍の館〟――名古屋、静岡そして豊橋……81
福知山収容所のバックアップのはずが……　詰めかける将官たち　さまざまなエピソード
ロシア正教会の支援活動　冷静に受け入れた静岡　はっきりしない収容所？
捕虜から送られた火事見舞金　収容所開設を望んだ豊橋　収容所間の格差
第七章　旅順開城への緊急対応策――堺浜寺、大阪、大津、京都……103
追われる収容所設置　第一陣到着　収容所での生活　騎兵が出動した大騒動や逃亡事件
再来日で骨を埋めた捕虜タラーセンコ　拡大する収容所――自由散歩の大阪は名所観光？
請願書を出した大津の収容所　寺院を利用した京都

第八章　増える捕虜――山口、福岡、小倉、久留米、熊本……123
検疫所も急遽収容所を併設　捕虜実益論と反優待論　二転三転した山口収容所、縮小に無念の声も
検疫所大里に収容所設置の下命　中洲にも置いた福岡の収容所　自炊拒否や脱走騒動
小倉収容所、脱走事件二件　「日露国際柔道大会」も開かれた久留米収容所
全国三番目の大収容所――熊本　帰国を控えて革命派と皇帝擁護派との確執

第九章　とまどう城下町――金沢、敦賀、鯖江……155
軍都金沢への面目を賭けて……　脱走騒ぎと郭通いと　数奇な再会
ロシアに開かれていた町・敦賀　こじんまりした鯖江収容所

第一〇章　箱根を越えた捕虜たち――習志野、佐倉、高崎……169
原野の習志野にバラック七五棟を建設　〝陸の孤島〟の収容所、見物人が押し寄せる
捕虜間の抗争と伏せられた脱走事件　習志野のバックアップ、最初の閉鎖収容所・佐倉
豊かな娯楽文化施設をも利用した高崎収容所

第一一章　奥羽列藩同盟の地にも――仙台、弘前、秋田、山形……185
松山を視察して万全を期した仙台　新たな〝お客さん〟　〝友好〟キャンペーンの結果は……
樺太攻略作戦による非戦闘員と捕虜の受け入れ　民家を使用した弘前収容所　多様な人間模様
「俘虜の分送を望む」秋田　樺太将校団のみの収容、山形

第一二章「収容所」ではなけれど——長崎・稲佐……205
終　章　捕虜送還——七万二〇〇〇名の遺したもの……211
あとがき……225
附　主要関係規則／俘虜捕獲戦場と人員数・収容所俘虜人員数・刑罰者数・死亡俘者数……229
参考文献……253